

TRITON-Rack

EXPANDABLE HI MODULE/SAMPLER

System Version 1.5

Update Guide アップデート・ガイド

KORG

取扱説明書の構成と使用方法

この取扱説明書は、TRITON-Rack システム・バージョン1.5の新機能と以前のシステム・バージョンからの改善点等を説明しています。

Multiモード、Diskモード、Samplingモードは独立した章として記述し、複数のモードで使用できる機能等は「その他の新機能」の章に記述しています。

また、この取扱説明書は付属の「Basic Guide」、「Parameter Guide」に対応するように、追加と変更箇所を説明しています。

取扱説明書の表記

PG: 「Parameter Guide」へ追加または変更する内容と、対応ページを示します。

BG: 「Basic Guide」へ追加または変更する内容と、対応ページを示します。

PG: 「Parameter Guide」の名称を省略してPGと表記します。

BG: 「Basic Guide」の名称を省略してBGと表記します。

なお、この他の表記は「Parameter Guide」、「Basic Guide」の表記方法に従っています。

Version 1.5 のおもな新機能

TRITON-Rackのシステム・バージョン1.5には、以下の新機能が追加されています。

Multiモード

ユーティリティ・メニュー・コマンド“Copy from Combination”ユーティリティ・メニュー・コマンド“Copy from Combi”に“Auto adjust Arp for Multi REC”オプションが追加になります。本機のアルペジエーターによる演奏を、接続した外部シーケンサーにレコーディングしたときに、レコーディング時とプレイバック時で同じ演奏が再現できるように、一部のトラックのMIDIチャンネルの補正や、必要なトラックの追加を自動的に行い、レコーディングに最適な状態にします。また、コマンド実行時、コンビネーションで実際に使用しているティンバーのみがトラックにコピーされるようになります。

Diskモード

KARMA Music Workstation, TRITON Leの.PCG/.SNGファイルのロード

KARMA Music Workstation(バージョン1.0およびバージョン2.0)とTRITON Leの音色データ(.PCGファイル)ならびにソング・データ(.SNGファイル)がTRITON-Rackでロード可能になります。

ユーティリティ・メニュー・コマンド“Load PCG(RAM) and Samples”ユーティリティ・メニュー・コマンド“Load PCG(RAM) and Samples”が追加になります。RAMサンプルを使用しているプログラム、ドラムキット、そのプログラムを使用しているコンビネーション、マルチのみをロードします。RAMサンプルを使用したプログラムやコンビネーション等の編集に有効な機能です。

また、今後リリースが予定されている他社製KORG TRITONフォーマットのサンプルCDライブラリーのデータ等も効率的に読み込むことができます。

Samplingモード

メトロノームのインディビジュアル・アウト出力

メトロノームの出力先をインディビジュアル・アウトに設定することによって、サンプリングを開始した後も、メトロノーム音を継続して出力します。楽曲のテンポに合ったフレーズなどをサンプリングする場合に効果的です。

その他の新機能

タップ・テンポ・コントロール

フロント・パネルの[ENTER]キーをタップ・テンポ・コントローラーとして使用できます。目的のテンポに合わせてキーを軽く押し、アルペジエーターやマルチのパターン再生の演奏テンポをリアルタイムに調整できます。

システムのインストール

DOSフォーマットのフロッピー・ディスクに書き込まれたTRITON-Rack Version 1.5 システム・ファイルをインストールすることによって、TRITON-RackのシステムをVersion 1.5 にアップデートすることができます。

Version 1.5.0 未満のシステムをご使用の場合は、以下の方法で「SYSTEM BOOT DISK for TRITON-Rack Version 1.5」システム・ファイル(2HD MS-DOSフォーマットのフロッピー・ディスク3枚)をTRITON-Rackにインストールしてください。

* システム・ソフトウェア・バージョンは電源オン時のLCD画面右側に表示されます。

「SYSTEM BOOT DISK for TRITON-Rack Version 1.5」システム・ファイルの入手方法についてはコルグお客様相談窓口にお問い合わせください。なお、コルグWebページ(<http://www.korg.co.jp>)からもダウンロードすることができます。

TRITON-Rack へのインストール

3枚の2HD MS-DOSフォーマットのフロッピー・ディスクに収められた「SYSTEM BOOT DISK for TRITON-Rack Version 1.5」システム・ファイルをご用意ください。

TRITON-Rackの[ENTER]キーと[WRITE]キーを押しながら電源をオンにします。

LCD画面に“ Please insert System 1 disk ”が表示されます。「SYSTEM BOOT DISK No.1」ディスクをフロッピー・ディスク・ドライブに入れてください。

自動的にシステムのロードが始まり、LCD画面に次のメッセージが表示されます。

“ Now loading... ”

“ Now erasing ROM ”

“ Checking the system's check sum ”

“ Please change to System 2 disk ”が表示されます。ディスクを取り出し、「SYSTEM BOOT DISK No.2」ディスクを入れてください。


手順と同様にメッセージが表示された後、“ Please change to System 3 disk ”が表示されます。ディスクを取り出し、「SYSTEM BOOT DISK No.3」を入れてください。


正常に書き換えが終了すると次のメッセージが表示され、システムが自動的に立ち上がります。

“ Checking system's check sum ”

“ System load was completed ”

しばらくすると初期画面に切り替わり、書き換えが終了します。

 途中でディスク・エラーが表示された場合、ディスクを取り出し、本体の電源を一度オフにしてください。あらためて手順 からシステムのロードを実行してください。

 システムのロード中は、本体のスイッチ類には触れないでください。また、絶対にTRITON-Rackの電源をオフにしないでください。

Multi モード

Copy from Combination

ユーティリティ・メニュー・コマンド^④ Copy From Combi が以下の内容に変更になります。

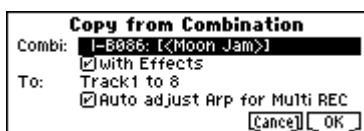
システム・バージョン 1.5 の Copy From Combi では、“Auto adjust Arp for Multi REC” オプションが追加になります。また、コマンドを実行すると、コンビネーションで実際に使用しているティンパーのみがトラックにコピーされるようになります。

PG 「Parameter Guide」Copy From Combi (PG P.51) の説明が以下の内容に変更になります。

Copy From Combi (Copy from Combination)

指定したコンビネーションのパラメーターを、現在選ばれているマルチの設定データとしてコピーします。“Copy From Combi”を実行すると、コンビネーションで使用しているティンパーのみをコピーします。

“Copy From Combi”を選び、ダイアログを表示します。



“Combi”でコピー元のコンビネーションを選びます。

“with Effects”をチェックすると、インサート・エフェクト、マスター・エフェクト、マスターEQの設定もコピーされます。

“To”でコピー先のトラック(1～8または9～16)を選びます。

操作 で To Track 1 to 8 を選んだときに“Auto adjust Arp for Multi REC”が設定できます。“Auto adjust Arp for Multi REC”は、本機のアルペジエーターによる演奏を、接続した外部シーケンサーにマルチトラック・レコーディングした場合、レコーディング時の演奏と同じサウンドがプレイバック時に再現できるように、必要な一部のトラックのMIDIチャンネル等の補正や、必要なトラックを追加します。

note コンビネーションでのARPEGGIATOR [ON/OFF]の状態によって補正します。オフでライトされているコンビネーションをコピーする場合は、マルチでも、アルペジエーターをオフで使うことが前提になります。マルチでアルペジエーターをオンで使用する場合は、コンビネーションでアルペジエーターをオンにしてライトしてから、コピーしてください。

チェックすると、トラックのMIDIチャンネル等の補正を自動的に実行します。

note 補正する内容は、“Auto adjust Arp for Multi REC”で補正される内容について、を参考にしてください。ただし、コンビネーションの設定によっては、ここでの設定に加えて、さらにトラックの設定変更が必要になる場合があります。

コピーを実行するときは[F8] (“OK”)キーを、実行しないときは[F7] (“Cancel”)キーを押します。

コピーを実行すると、現在選ばれているマルチの設定データを削除し、コンビネーションの設定データに書き換えます。

“Auto adjust Arp for Multi REC”で補正される内容について

ユーティリティ・メニュー・コマンド^④ Copy From Combi を“Auto adjust Arp for Multi REC”にチェックしないで実行し、本機のアルペジエーターをオンにして、接続した外部シーケンサーでマルチトラック・レコーディングを行った場合、レコーディング時の演奏が再生時にプレイバックできないことがあります。

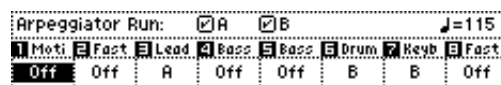
同一のMIDIチャンネルに設定されている複数のトラックは、レコーディング時に演奏データが1つにまとめられます。アルペジエーター機能によって発音しているトラックと同一のMIDIチャンネルのトラックがある場合、アルペジエーターによって演奏されたデータと、手弾き等で入力した演奏データが1つにまとめられ、同じチャンネルの各トラック (“Status” INT時)すべてが発音してしまいます。

このような場合は、アルペジエーター機能によって発音しているトラックのMIDIチャンネルを変更し、さらにアルペジエーターを起動させるためのトラックを作ることによって解決できます。

レコーディング時の演奏が再生時に再現できない場合は、次の条件を確認してください。

note ユーティリティ・メニュー・コマンド^④ Copy From Combi で “Auto adjust Arp for Multi REC” をチェックしたとき、ここでの内容を自動的に実行します。通常チェックをつけて実行してください。その場合、ここでの修正は必要ありませんが、自動修正の内容をここで確認してください。

- MULTI 6.1: Arp., Set..8 ページ “Assign” と “Arpeggiator Run” A, B の設定



- MULTI 3.1: Param 1, MIDI..8 ページ “MIDI Channel” の設定



“Arpeggiator Run” A, B がチェックされ、アルペジエーターがトラックにアサインされている場合、“MIDI Channel” に 01 以外が設定されているかを確認します。

note グローバルMIDIチャンネル GLOBAL 2.1: MIDI, MIDI ページ “MIDI Channel” が 01 の場合です。

Arpeggiator Run	MIDI Channel *1	修正
“A” “B” のどちらかがチェックされている場合	01 のみ	修正必要
	01 02, 01 03, etc.	修正必要なし
“A” “B” が両方ともチェックされている場合	01 のみ	修正必要
	01 02, 01 03, etc.	片方のみ修正必要
	01 02 03, etc.	修正必要なし / 必要 *2

*1 アルペジエーターが動作する複数のトラックにそれぞれ設定されている “MIDI Channel” が 01 だけの場合は、「01 のみ」の欄を見ます。
“MIDI Channel” が 01 と 02 または 01 と 03 のように 01 ともう1つのチャンネルが設定されている場合は「01 02, 01 03, etc.」の欄を、01 と 02 と 03 のように 01 とその他複数のMIDIチャンネルが設定されている場合は「01 02 03, etc.」の欄を見ます。

*2 修正が必要な場合は、1つのアルペジエーターが動作するトラックが “MIDI Channel” 01 だけを使用しているときです。また、2つのアルペジエーターで同じMIDIチャンネルを使用している場合にも修正が必要な場合があります。

前図は、コンビネーション-B086: [<Moon Jam>]を“ Copy From Combi ”で“ Auto adjust Arp for Multi REC ”をチェックしないでコピーした例です。前述の操作 ~ を参照し、実際にコピーして確認してください。(このコンビネーションのアルペジエーター設定についてはBG P.88を参照してください)

この設定を例として修正が必要か、そして修正が必要な場合、どこを修正するかを確認します。

“ Arpeggiator Run ”AとBにチェックがついていて、アルペジエーターが動作するトラックには“ MIDI Channel ”01と03が設定されています。片方のアルペジエーターに対して修正が必要です。この設定のままマルチトラック・レコーディングを行うと、T01, 02, 03, 04, 05 のMIDIチャンネルが同一のため、低音側のベース(T04, T05)高音側のモーション・シンセ/パッド(T01, T02)アルペジエーターAによるリード・シンセ(T03)の演奏データが1つにまとめられてしまい、再生時に演奏が再現されません。(T07はアルペジエーターBをトリガーするためのダミー・トラックです。)

アルペジエーターAによるリード・シンセの演奏データを分けてレコーディングするために、T03のMIDIチャンネルを変更します。
MULTI 3.1: Param1, MIDI..8ページを選び、Track03の“ MIDI Channel ”を02に変更します。

アルペジエーターAをトリガーするための設定を加えます。
MULTI 3.1: Param1, MIDI..8ページを選び、トラック8の“ Status ”をOff、“ MIDI Channel ”を01に設定します。(T08はアルペジエーターAをトリガーするためのダミー・トラックとなります。)

MULTI 6.1: Arp., Set..8ページを選びます。トラック8のAssignをAに設定します。

以下の設定になります。

トラック	T01	T02	T03	T04	T05	T06	T07	T08
Assign	Off	Off	A	Off	Off	B	B	A
Status	INT	INT	INT	INT	INT	INT	Off	Off
MIDI Ch.	01	01	02	01	01	03	01	01


以上で修正が終了しました。接続した外部シーケンサーでマルチトラック・レコーディングしてください。


note 本機のアルペジエーターによる演奏データを外部シーケンサーでマルチトラック・レコーディングするときは“ Status (3.1-1 (2)a)をBTHに設定します。その他の設定については、PG P.228「TRITON-Rackのコントローラー、アルペジエーター、RPPRのMIDI出力を外部シーケンサー/コンピューターにレコーディングする」を参照してください。

Disk モード

KARMA Music Workstation, TRITON Leの .PCG/.SNG ファイルのロード

システム・バージョン1.5では、KARMA Music Workstation(システム・バージョン1.0および2.0)フォーマットとTRITON Leフォーマットの.PCGファイルおよび.SNGファイルを変換しながらロードすることが可能になります。ただし、以下の制限および注意事項があります。

 コンビネーション、プログラムのカテゴリが不適切になる場合があります。

 KARMA Music Workstationの.MID、.EXLファイルとTRITON Leの.KSC、.KMP、.KSF、.MID、.EXL、.AIF、.WAVファイルは、完全なデータの互換性が確保されています。外部メディアを介してのロード/セーブが可能です。また、KARMA Music Workstationシステム・バージョン2.0でセーブされた.KGEファイルは、未定義DOSファイルとして認識します。

KARMA Music Workstationでは有効、TRITON-Rackでは無効となるパラメーター

1. KARMA 機能

本機では、KARMA 機能を搭載していないため、KARMA Music Workstationの.PCGファイルおよび.SNGファイルをロードした場合、プログラム、コンビネーション、各ソングに含まれるKARMA機能のパラメーターはロードされません。また、ロード後の各アルペジエーター関連のパラメーターは初期値に設定されます。

2. Combination, Sequencer モード MIDI Filter “FootPedal/Switch” パラメーター

パラメーター設定は内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。

3. Sequencer モード・パラメーター / データ

KARMA Music WorkstationのSequencerモード・データは、.SNGファイルのロードにより、TRITON-RackのMultiモード・データとしてデータ互換が可能です。ただし、以下の場合、注意が必要です。

- 以下のパラメーター設定は、内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。
 - “ Meter ”
 - “ Tempo Mode ”
 - “ PLAY/MUTE/REC ”
 - “ Loop On ”
 - “ Loop Start Meas(Loop Start Measure) ”
 - “ Loop End Meas(Loop End Measure) ”
 - “ Play Intro ”
- Cue Listデータ(キュー・リストの設定データ)は、ロードされません。
- Trackデータ(ソングの全トラックのイベント)
“ Load Track events? ”(PG P.128「Load selected 15,16」1.1-1d)をチェックすると、ロードされます。内部データとして保存されますが、Multiモードでは使用できません。
- KARMA Music Workstationシステム・バージョン2.0での“ Tone Adjust ”パラメーターは、ロードされません。

4. Global モード・パラメーター

- 以下のパラメーター設定は、内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。
 - “ Convert Position (TRITON-RackはPostMIDIで動作) ”
 - “ Foot SW Assign ”
 - “ Foot Pedal Assign ”
 - “ Damper Polarity ”
 - “ Foot SW Polarity ”
 - “ S/S Out P/C (KARMA Music Workstationシステム・バージョン2.0のみ) ”
 - “ RT(Realtime Command) (KARMA Music Workstationシステム・バージョン2.0のみ) ”
- KARMA Music Workstationシステム・バージョン2.0での“ MIDI Clock ”Autoの設定は、Externalに設定されます。
- “ Auto KARMA Program ”の設定は、“ Program(Auto Arp. Program) ”のパラメーターとして使用されます。
- “ Auto KARMA Combi ”の設定は、“ Combi(Auto Arp. Combi) ”のパラメーターとして使用されます
- Audio Inputの各パラメーターは、ロード前の設定が保持されます。

TRITON Leでは有効、TRITON-Rackでは無効となるパラメーター

1. インサート・エフェクト (IFX)

Combination、Program、Sequencerの各モードのインサート・エフェクト(IFX)のパラメーターは、IFX1のパラメーターとしてロードされます。IFX2 ... IFX5のパラメーターは初期値に設定されます。

2. ドラムキット

00-15(INT)のドラムキットは00-15(I-A/B)に、16-23(User)のドラムキットは16-23(E-A)にそれぞれロードされます。

3. アルペジオ・パターン

U000-199(INT)のアルペジオ・パターンはU000-199(I-A/B)に、U200-215(User)のアルペジオ・パターンはU200-215(E-A)にそれぞれロードされます。

4. Program モード、Audition Riff パラメーターの設定

TRITON-Rackでは対応する“ 383: Kit-Trance/Garag ”オーディション・リフがないので正しく発音/動作しません。ただし、パラメーターの設定は、TRITON-Rackの内部データとして保存され、セーブ時にはロード時の設定で出力されます。

5. Combination, Sequencer モード MIDI Filter “ Foot Pedal/Switch ” パラメーター

パラメーター設定は内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。

6. Sequencer モード・パラメーター / データ

TRITON LeのSequencerモード・データは、.SNGファイルのロードにより、TRITON-RackのMultiモード・データとしてデータ互換が可能ですが、ただし、以下の場合、注意が必要です。

- 以下のパラメーター設定は、内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。
 - “ Meter ”
 - “ Tempo Mode ”
 - “ PLAY/MUTE/REC ”
 - “ Loop On ”
 - “ Loop Start Meas(Loop Start Measure) ”
 - “ Loop End Meas(Loop End Measure) ”
 - “ Play Intro ”
- Cue Listデータ(キュー・リストの設定データ)は、ロードされません。
- Trackデータ(ソングの全トラックのイベント)
“ Load Track events? ”(PG P.128「Load selected 15,16」1.1-1d)をチェックすると、ロードされます。内部データとして保存されますが、Multiモードでは使用できません。

7. Global モード・パラメーター

- 以下のパラメーター設定は、内部データとして保存されますが、そのデータは無視されます。
 - “ Convert Position ”(TRITON-RackはPostMIDIで動作)
 - “ Foot SW Assign ”
 - “ Foot Pedal Assign ”
 - “ Damper Polarity ”
 - “ Foot SW Polarity ”
 - “ RT(Realtime Command) ”(TRITON Leシステム・バージョン1.5のみ)

データの互換性

システム・バージョン1.5では、各種データ・フォーマットにおいて、従来のシステム・バージョン(バージョン1.1以前)とのデータ互換性が確保されています。

note TRITON-Rackは、各種データ・フォーマットにおいて、TRITON/TRITON pro/TRITON proXおよびTRITON STUDIOとのデータの互換性が確保されています。フロッピー・ディスク等の外部メディアを介してのロード/セーブ、またはMIDIエクスルーシブデータ・ダンプやパラメーター・チェンジでのデータ互換が可能です。ただし、バンク構成やパラメーター構成の違い等で注意が必要です。詳しくはTRITON/TRITON pro/TRITON proXおよびTRITON STUDIOの取扱説明書を参照してください。

Load PCG(RAM) and Samples

1.1-1: Loadのユーティリティ・メニュー・コマンドに“ Load PCG (RAM) and Samples ”が追加になります。

“ Load PCG(RAM) and Samples ”では、RAMサンプルを使用しているプログラム、ドラムキット、そのプログラムを使用しているコンビネーション、マルチのみをロードします。RAMサンプルを使用したプログラムやコンビネーション等の編集に有効な機能です。今後リリースが予定されている、他社製KORG TRITONフォーマットのサンプルCDライブラリーのデータ等も効率的に読み込むことができます。

ユーティリティ・メニュー

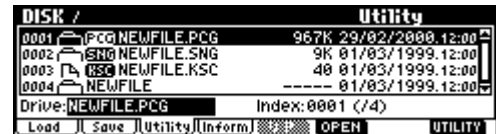
1.1-1: Loadのユーティリティ・メニューに“ Load PCG(RAM) and Samples ”が追加になります。



Load PCG(RAM) and Samples

RAMサンプルを使用しているプログラム、ドラムキット、そのプログラムを使用しているコンビネーション、マルチのみをロードします。PCGファイルのロード時に選択できます。ロード時のダイアログで先頭のバンク、ナンバーを指定すると、あとは有効なものだけが自動的につめてロードされます。また、ロード時にサンプルやプログラムが正しく対応するように自動的に設定されます。

ディレクトリ・ウィンドウで.PCGファイルを選択します。



このコマンドを選択して、ダイアログを表示します。

このコマンドは、.PCGファイルを選んだときだけに表示され、選択できます。

! 分割された.PCGファイルはロードできません。コマンド選択後に「Can't load divided PCG file」のメッセージを表示し、ロードを中止します。



.PCGファイルと同一ファイル名の.SNGファイルを、.PCGファイルと一緒にロードする場合は“ Load *****.SNG too ”チェック・ボックスをチェックします。.PCGファイルと同一ファイル名で拡張子が.SNGのファイルも一緒にロードされます。

note .PCGファイルと同一ファイル名で拡張子が.KSCのファイルは、.PCGファイルと同時に必ず一緒にロードされます。カレント・ディレクトリ以下にファイルがない場合は、「ロードするファイルが見つからない場合や、分割してセーブしたファイルをロードする場合は」(PG P.125)の手順に従ってロードを実行してください。

.PCGファイルでロードされる内容:

1. Drum Kit: “ High/Low Drumsample Bank (GLOBAL 5.1-1b/5.1-2a (PG P.116))で、少なくとも1つのKEYでRAMを設定しているドラムキット
2. Program: “ Mode(Oscillator Mode)(PROG 2.1-1a (PG P.5))でDrumsを設定し、さらに“ Drum Kit (PROG 2.1-2d (PG P.8))で上記1.のドラムキットを設定しているプログラム。
3. Program: “ Mode(Oscillator Mode)(PROG 2.1-1a (PG P.5))でSingleまたはDoubleを設定し、さらに“ OSC 1/2 High/Low MS Bank (PROG 2.1-2(3)b (PG P.7))で、少なくとも1箇所RAMを設定しているプログラム。
4. Combination: “ Program Select ” (COMBI 1.1-2c/2.1-1a (PG P.33, P.35))で、上記2.または3.のプログラムを設定しているコンビネーション。

.SNGファイルでロードされる内容:

1. Multi: “ Program Select ” (MULTI 1.1-2(3)b (PG P.51))で、上記“.PCGファイルでロードされる内容”の2.または3.のプログラムを設定しているマルチを、インターナル・メモリー上に存在する最後のマルチの次のナンバーから、つめてロードします。(PG P.126 1) Load .PCG 操作 「.SNG Allocation」)

ロード後の各データが正しく対応するように以下を自動的に設定しなおします。

- ・ マルチサンプルで使用しているRAMサンプル・ナンバー
- ・ ドラムキットで使用しているRAMサンプル・ナンバー
- ・ プログラムで使用しているRAMマルチサンプル・ナンバー
- ・ プログラムで使用しているドラムキット・ナンバー
- ・ コンビネーションで使用しているプログラム・バンク/ナンバー
- ・ マルチで使用しているプログラム・バンク/ナンバー(パターン・イベントがある場合、イベント内のプログラム・バンク/ナンバー)

“ Load ROM-Program in Combi/Multi too ”を設定します。
On(チェックする) .PCGファイルのコンビネーション、.SNGファイルのマルチにおいて、RAMを使用しているプログラムと同時にROMを使用しているプログラムもロードします。ロードするコンビネーション、マルチでプリロード・プログラム以外に作成したユーザー・プログラムを使用している場合などに設定します。

note ロードするコンビネーション、マルチで使用しているすべてのROMを使用しているプログラムがロードされます。

! Bank INT-Fのプログラム・データはロードされません。

Off(チェックしない) .PCGファイルのコンビネーション、.SNGファイル内のマルチにおいて、RAMを使用しているプログラムのみをロードします。RAMを使用しているプログラムに加えて、プリロード・プログラムを使用している場合は、通常チェックしません。

Toの“ Combi ”で.PCGファイル内にあるコンビネーションのロード先のバンクおよびナンバーを指定します。実行すると、ここで指定したバンクおよびナンバーを先頭に、有効なコンビネーションのみがつめてロードされます。

! ロード先のバンクおよびナンバーが、EXB-H127を超える場合、ロードは自動的に終了します。

Toの“ Prog ”で.PCGファイル内にあるプログラムのロード先のバンクおよびナンバーを指定します。実行すると、ここで指定したバンクおよびナンバーを先頭に、有効なプログラムのみがつめてロードされます。

! ロード先のバンクおよびナンバーが、EXB-H127を超える場合、ロードは自動的に終了します。

Toの“ DKit ”で.PCGファイル内にあるドラムキットのロード先のナンバーを指定します。実行すると、ここで指定したナンバーを先頭に、有効なドラムキットのみがつめてロードされます。

! ロード先のバンクおよびナンバーが、143(E-H)を超える場合、ロードは自動的に終了します。

! 指定したバンク/ナンバー以降は、ロードすることによって書き換えられます。データを残しておきたい場合は事前に“ Save All ”または“ Save PCG ”でセーブしておいてください。

ロードするときは[F8](“ OK ”)キーを、ロードしないときは[F7](“ Cancel ”)キーを押します。

その他のアップデート

Diskモードでは、以下の動作を改善しました。

- ・ [F6](“ OPEN ”)キーで下の階層のディレクトリ、ファイルに移動し、再度 [F5](“ UP ”)キーで上の階層へ移動したときに、もとのディレクトリ、ファイルを選択するようにしました。

Sampling モード

メトロノームのインディビジュアル・アウト (Count Down REC Metronome)

サンプリング開始時のメトロノームを設定する 1.1-3d: Metro (Count Down REC Metronome)において、メトロノームの出力先(“ BUS(Metronome BUS) ”)をインディビジュアル・アウト(1, 2, 3, 4)に設定したときの動作が以下のように変更になります。

“ Count Down(Count Down REC)(1.1-2b (PG P.78))を4, 8, 3, 6のいずれかに設定し、メトロノームの出力先(“ BUS(Metronome BUS) ”)をインディビジュアル・アウト(1, 2, 3, 4)にすると、サンプリングを開始した後もメトロノーム音を継続して出力します。楽曲のテンポに合ったフレーズなどをサンプリングするときに効果的です。

PG 「Parameter Guide」 Sampling モード 1.1-3d: Metro (Count Down REC Metronome) “ BUS(Metronome BUS) ” (PG P.79)の説明に、上記の内容が追加になります。

その他の新機能

タップ・テンポ・コントロール

Program、Combination、Multiの各モードでタップ・テンポ・コントロール機能が追加になります。

各モードのアルペジエーターやMultiモードのパターンまたはRPPRを再生中に目的のテンポに合わせて[ENTER]キーを数回軽く押すことで、これらのテンポをリアルタイムにコントロールできます。他のビートと合わせる場合に便利な機能です。

操作例

Programモードでの操作例を以下に示します。

ProgramモードでI-A004: ! {Tricky} Kit !を選びます。



PROG 1.1: PlayでArp., Playページを選択し、“Latch”チェックボックスをチェックします。



フロント・パネルのARPEGGIATOR [ON/OFF]キーをオンにします。

目的の拍子に合わせて[ENTER]キーを数回軽く押します。演奏テンポに合わせてLCD画面右上のテンポ“♩= ”の表示が変わります。鍵盤を押さえると、アルペジエーターによるドラムス・パターンを合わせたテンポで演奏します。

[ENTER]キーを拍子のタイミングに合わせて軽く押します。そして、キーを押す間隔を少し速めます。

ドラムス・パターンの演奏テンポが少し速くなります。

その他のアップデート

ProgramモードのPROG 2.1: Edit-Basic, Basicページの“Voice Assign Mode (2.1-1b ⇔ PG P.5)”がMonoの場合の動作を以下のように変更しました。

システム・バージョン1.1以前では、ノート・オン3音まではノートを内部的に記憶していました。

C オン D オン E オン F オン F オフ E オフ D オフ
C 発音 D 発音 E 発音 F 発音 E 発音 D 発音 発音なし

システム・バージョン1.5では、記憶するノート・オンを10音まで拡張しました。モノ・モードでの演奏に有効です。

C オン D オン E オン F オン F オフ E オフ D オフ
C 発音 D 発音 E 発音 F 発音 E 発音 D 発音 C 発音

各種メッセージ

Can't load divided PCG file

内容: Diskモード“Load PCG(RAM) and Samples”実行時に、分割された.PCGファイルをロードしようとした。

対策: Diskモード“Load Selected”を実行し、分割された.PCGファイルを一旦ロードしてから、分割しない形で.PCGファイルをセーブし直して、再度“Load PCG(RAM) and Samples”を実行してください。

PG 「Parameter Guide」9.付録 - 各種メッセージ(⇔PG P.230)に追加になります。